

わるいタッチの判断

島根大学の
研究・地域貢献
事業紹介

2

医学部



手をつなぐ

幼児・小学校低学年
向け「児童養護施設に
おける性(生)教育プロ
グラム 資料・台本集」



プライベートゾーンをさわる

プライベートゾーン＝
水着で隠れるところ＋くち

性行動のルール

- ①自分のプライベートゾーンを見せてはいけない
- ②自分のプライベートゾーンを触らせてはいけない
- ③他人のプライベートゾーンを見てはいけない
- ④他人のプライベートゾーンを触れてはいけない

例外：お医者さんに診てもらった時、大人が乳幼児をお世話する時

自分も他者も大切に。
暴力を連鎖させないための
知識と自尊心の醸成を

児童間暴力を予防する 教育プログラムを作成

榊原講師は大学院卒業後、島根県で9年間保健師として勤務。児童相談所に配属された際、児童養護施設に入所している子どもも同士の暴力を予防するプログラム作成の重要性を強く感じたそうです。「児童養護施設に入所している約6割が虐待を受けた子どもです。幼児から高校生までの幅広い年代が集団で生活をするため、ストレスを抱えやすく、子ども同士の暴力が生じやすい環境にあります。暴力とは、殴ったり蹴ったりといった身体的なものだけでなく、心理的、性的なものも含まれます。家庭で虐待を受けた



PROFILE

医学部 看護学科
榊原 文 講師
さかきはら あや

生まれ育った雲南市で今、子育てをしているのですが、見守り隊や地域行事などが盛んで、ソーシャル・キャピタルが非常に豊かだと実感しています。一母親として助けられています。誰もが地域の一員という意識と取り組みが大事。私も子どもと一緒に地域行事に参加していきたいと思ひます。

保護者がいない、または、虐待などにより適切な養育を受けられない子どもを、公的に育てる場所の一つが児童養護施設です。しかし今、入所している子どもも同士の暴力が問題視されています。医学部看護学科の榊原文講師は、子どもたちが被害者・加害者にならないよう、適切な知識と自尊心を持つ大切さを強調します。

いいタッチ・



2

1. 榎原講師が作成した台本集は、島根県中央児童相談所HPから閲覧可能。2. 平成29年、「地域看護学実習II（産業看護実習）」における教育実践で、島根大学優良教育実践表彰を受賞。3. 榎原講師が立ち上げた在宅ボランティアサークル「えすここ」の活動風景。4. 平成28年、第75回日本公衆衛生学会総会で「ソーシャル・キャピタルと産後うつ発生率との関連」が、ポスター賞を受賞。



4



3

いいタッチ



ありがとうと言う



おんぶ

わるいタッチ



ものをなげる



パンチ・キック

イラスト：Yuka

1

子どもが、入所後に再び暴力被害に遭うことは是が非でも予防しなければならぬと思いましたが」と榎原講師。「特に性暴力は心理的ダメージが大きく、自尊心を著しく低下させてしまっています。そこで、自分も他者も大切にできる性（生）教育プログラムを作成しました。これは、長期的な視点でみれば、子どもが将来親になつた時の虐待予防につながると考えています」。

まず、施設職員にインタビューを行つて、性問題行動の実態を把握。実態を踏まえたプログラムの検討し、性行動のルールや感情の理解、いいタッチ・わるいタッチの判断、嫌な気持ちになつた時の対処方法、体を清潔にする方法、自尊感情を高める内容で構成しました。内容ごとにプライベートゾーン等のキーワードを設定し、子どもと施設職員の共通言語とすることで、職員が指導しやすいようにしました。「自尊感情の低かつた子ども達が少しずつ自信を持てるようになり、落ち着きが出てきました。施設職員さんも指導がしやすくなつ

たようです」。

性被害を受けた子どもへの性教育プログラムや施設職員が子どもへの性行動の理解を深める研修プログラムも開発。これらのプログラムは県内外から注目を集めており、研修依頼もあるそうです。

地域の絆が 育児負担の軽減に

榎原講師がもう一つ強調するのが、ソーシャル・キャピタル（地域の絆）の重要性です。「現代社会、親も様々な要因で育児の負担を感じています。行政も子育て支援や虐待予防に取り組んでいます。地域の絆や信頼関係があれば、育児に悩む親たちの支えになるはずで

す」。研究の結果、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域では、産後うつ病の発症割合が少なく、育児負担を感じている人の割合も少ないことが明らかになりました。

今後は親のインターネット依存が子どもにもたらす影響や、里親の子育て支援の研究も深めていく考えです。